

事務室より

三月例会 二十一日夕七時から樂友會館で開催、出席者は會員其他を合して約百名。山本博士の御話は豫告の通り「過去の日食と將來の日食」であつた。

過去に於ける日食の記録、十九世紀に於ける、觀測術の進歩、寫眞術の應用、スペクトロスコープの使用により、日食の度毎に異常な進歩をした太陽研究の有様を主として話され、又將來の日食に就き、之に對する用意を述べられた。

次いで、上田先生は在外研究の御出發も迫り、かつ其日東京から歸られた御忙しいにもかかわらず御出席下され「支那古代の天文圖なる」演題で一場の御話があつた。

正面に天象列次分野之圖なる支那の石刷の星圖を掲げ、星官を作つた年代、それを作つた人々、分點の定め方、それを見る時の注意、二十八宿の説明など、約一時間に亙つて述べられた。

講演會が終つたのが九時で、それから山本先生の御好意により、上田先生を御送りする意味の茶話會を開いた。時が時故話は自然と日食の事に移つて行き、若い者が今度の日食に就て非常な意氣込みを見せれば、御老人は明治初年の北陸に起つた皆既食に就き昔語りをせられ、十時過ぎで談笑した。

支部幹事の異動 從來濱松支部幹事として御世話を願つて居た。濱松高等工業學校の城憲三氏は今回大阪工業大學に榮轉せられた。本會が昨年來靜岡縣で非常な發展をし、濱松支部の設置を見るに到りましたのは、一に同氏の御努力の賜物と厚く御禮申上げる次第であります。大阪の新しい御住居は府下中河内郡長吉村字長原です。次いで濱松支部幹事の後任としては、城氏の御推薦により、高等工業學校物理教室の荒川忠一氏に御願する事に致しました荒川氏は濱松に於ける最も熱心なる觀測家なのでありますから、此方面も益發展する事でせう。

札幌支部幹事中川誠一氏は御都合により辭任された。

會員の訃 本會大連支部幹事として多年本會のために盡力された石川龜治氏は去る三月十七日遂に永眠された。誠に哀悼の情に堪へない。因に同氏三十餘年の長い間、小學教育につくされた人で昨年の御大典には教育功勞者として表彰された一人であつた。行年五十六

事務室より 荒木助教授に次いで、上田助教授もアメリカへ赴かれ、日食觀測隊も出發し、それに學年末で學生は少く、教室は至つて靜です。山本先生の御不在中は二階の先生の室へ移つて仕事をして居ります。出来るだけ間違の無い様に、又出来るだけ合計を豊にする様に心掛けて居ります。

香 港 よ り

皆様の御見送りを受けて、去る二十四日朝京都を出で、各驛に停るのん氣な汽車で三の宮へ十一時前に着。デランティア觀測者として宮澤堂君が芦屋から同車しましたから、之れで一行は六名となりました。

神戸ではオリエンタル・ホテルで少憩。こごんの旅行のため始めから大變に御世話になつた大阪の奥村幸二郎氏を加へて、皆が午餐を認めた後、午後一時のランチでメリケン波止場から「たこま丸」に乗り込みました。船まで見送つて下さつた方方は、神戸支部の改發氏御一家を始め、合計四十人ばかり、教室の新理學士山村森川兩君や、大阪の奥村上村兩氏、中村君の御尊父や御兄妹、芦屋の安東御夫妻など。御かけて船のサルーンは暫く大賑はひでした。

船は正二時に錨を拔きましたが、空は曇り乃至小雨で、内海の景色も好くは見えませんでした。——此の曇り空は實は今日（香港へ着く日）まで續いてます。只、昨日だけは一寸空の一部が晴れて、太陽が見え、又、夜には星も見えました。昨夜見える筈の「南十字架星座」は駄目でしたが、只カノプス星が高く、北極星が低いのを見ました。

門司へ船が着いた二十五日の夜は下關で惠藤、廣津其の他の會員たちに迎えられ、講演會後は六人が河村氏宅と廣津氏宅に泊りました。

今朝早く香港に着きました。明朝出帆します。

四月一日

「たこま丸」にて 山 本 一 清